

2024 年度

文京学院大学人間学部

FD 委員会報告書（概要）

2024 年 2 月 15 日

人間学部 FD 委員会

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1.活動経過と内容・・・・・・・・	4
2.委員会議事録・資料（第1回～6回）	5
おわりに・委員氏名	12

2024 年度 文京学院大学人間学部 FD 委員会報告書(概要)

はじめに

2020 年度以降の人間学部 FD 研修会のテーマを振り返ると、その時々における教育上の課題や社会の変化に対応するための取り組みがうかがえます。2020 年度は、コロナ禍における遠隔授業という初めての挑戦に直面し、各学科の工夫や課題を共有しながら、次年度以降の授業改善に向けた議論が行われました。2021 年度は、対面授業の再開に伴う演習・実習・実験の工夫、また後期にはデータサイエンス科目必修化を見据えた研修が行われ、教育のデジタル化をめぐる動向や大学教育に求められる変化について理解を深めました。2022 年度は、学生の退学防止を主眼に据え、教員同士のみならず、教務・学生支援グループとの協働により、学生をどう見守り、支援していくかを実践的に検討しました。2023 年度は、「より楽しいキャンパスライフの実現」や「学習習慣のない学生への対応」など、学生の大学生活全体を視野に入れた課題に対して、学科を超えた意見交換やグループディスカッションを通して具体的な取り組みを検討する機会となりました。

こうした過去の流れを受け、2024 年度は、AI（人工知能）の急速な普及に着目し、「大学教員と AI の親和性を醸成する」ことを年間の FD 活動の主たるテーマとしました。近年、生成 AI を含む高度な AI ツールが日常的に利用されるようになり、高校生の段階から ChatGPT や画像生成 AI などを活用している実態が明らかになっています。大学に入学した学生たちは、既に私生活や高校教育において AI を使いこなしており、その活用は大学教育の現場においても今後ますます拡大していくと予想されます。AI の使用は、学修支援や創造的思考の補助など、教育的な利点を多く持つ一方で、不正利用や学習意欲の低下といった課題も孕んでいます。AI の教育利用が避けられない今、私たち大学教員がその実態と影響を正しく理解し、教育現場における適切な付き合い方を模索することは急務となっています。

しかしながら、文系学部である人間学部の教員の中には、AI 技術に対する関心がまだ十分に高まっていないのが現状です。特に、日常的な業務や授業で AI を活用する機会が少ない教員にとっては、AI との距離を感じるのも無理はありません。こうした背景から、2024 年度の FD 研修では、「AI とどう向き合い、どのように活用するか」について、まずは関心を持ち、気軽に話し合える場づくりを大切にしました。教員が自らの専門分野や授業に引き寄せながら、AI を単なる技術ではなく、教育的資源の一つとしてとらえ直すことを促す機会となるよう企画しました。

本報告書（概要）は、AI に対する教員の関心を高め、大学教育における AI との適切な関係性を模索する第一歩として実施された FD 研修会の活動内容と議論の経過をまとめたものです。AI という新しいテーマに取り組む中で、学科や専門領域の垣根を越えた意見交換が行われ、教員同士の理解や連携を深める契機ともなりました。

今後も、人間学部 FD 委員会では、社会や学生の変化に柔軟に対応しながら、教職協働による教育の質向上を目指して研修活動を継続していく所存です。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

人間学部 FD 委員会 委員一同

1. 活動経過と内容

実施日	FD委員会（主な議題）	委員会開催方法
5月15日（水）	第1回人間学部FD委員会 ・ 委員会の進め方の確認 ・ 今年度の委員会目標 ・ 前期FD研修会のテーマ	Teams
6月5日（水）	第2回人間学部FD委員会 ・ 前期FD研修会のテーマ検討 ・ 研修会日程の検討 ・ 研修会の進行確認 ・ 研修会の役割分担	Teams
7月3日（水）	第3回人間学部FD委員会 ・ 前期FD研修会のテーマ決定 ・ スケジュール確定 ・ 役割分担決定	Teams
7月10日（水）	研修テーマ「AIとのつきあい方」	人間学部前期FD研修会（対面）
10月2日（水）	第4回人間学部FD委員会 ・ 前期FD研修会の振り返り ・ 後期FD研修会開催日時の検討	Teams
11月6日（水）	第5回人間学部FD委員会 ・ 後期FD研修会のテーマ検討 ・ 開催方法の検討	Teams
12月4日（水）	第6回人間学部FD委員会 ・ 後期FD研修会のテーマ決定 ・ 研修会日程、研修会の進行確認	Teams
1月8日（水）	第7回人間学部FD委員会 研修会の流れの確認 研修会の役割分担	Teams
1月15日（水）	研修テーマ「AI（Notebook LM）を体験する」	人間学部前期FD研修会（対面）
2月5日（水）	第8回人間学部FD委員会 後期のFDのふりかえり	Teams
2月15日（水）	2024年度人間学部FD研修会報告書 ならびに報告書（概要）の完成	メール

2. 委員会議事録・資料（第 1 回～6 回）

第 1 回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2024 年 5 月 15 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

1. 人間学部前期 FD 研修会テーマの検討（第 1 回）

2023 年度の FD 委員会報告書を参考に議論した。その結果、仮テーマとして、以下で実施する方向で準備を進めることが確認された。

テーマ：AI とのつきあいかた～仕事の効率化のためのテクノロジー導入

実施形態：教員全員が個々の PC でのハンズオン

【2023 年度の FD 委員会報告書における、研修会テーマ検討資料】

2022 年度 後期 FD 研修会後に実施した【今後の研修内容に関するアンケート】結果

※下記一覧表より抜粋しカテゴリー分け

<学生支援>

- ・発達障害学生への具体的な対応
- ・ グレーの学生の対応
- ・ 在日外国人の学生への日本語などのサポートのあり方
- ・ 文章を書くのが苦手な(勉強不足というより、能力的に書けない)学生への対応

<退学者減少・学生の活性化>

- ・ 「退学」申し出を行った学生を含めて、学生への支援に関する研修
- ・ 退学防止に向けての先生方の取り組み
- ・ 学生活動の活性化について

<教育の効率化>

- ・ 教育と研究の両立
- ・ 仕事の効率化のためのテクノロジーの導入

【2024 年度前期研修会テーマ（案）】

以上のテーマの解決には、教員が学生にかかわる時間的余裕を作ることが必要である。

しかし現状では、どの学科でも事務的な仕事や、学生からの問い合わせなどに取られる時間が増加傾向にあり、まとまった時間的余裕、心理的余裕が作りにくい状況にある。

しかし学生との対応には、十分な時間的、心理的余裕が必要である。この問題を解決し、いずれは避けて通れない AI を使えるようになるために、今年度の目標は、「AI とのつきあ

いかた」とした。

以上

第2回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2024 年 6 月 5 日（水） 場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

1. 2024 年度 人間学部前期 FD 研修会テーマ（第 1 回）が検討された。

テーマ（案）

「AI とのつきあいかたを考える」

※まず AI について、実際にどんなことができるかを知って、興味をもってもらう。
心理的な抵抗感を低減させるため、教育に使うのではなく、日常の業務の負担を減らすため
（それによって時間を生み出すため）という目的で行う。

2. 実施時期と実施形態が提案された。

・7 月 10 日（水） 教授会後の 1 時間（16：30 開始予定）対面、教員のみでの実施

3. 内容

FD 委員が、実際に AI に仕事を依頼して、どのようなことを依頼できるのか、どのような
回答が得られるかのプレゼンを行う。

それを見て、学科ごとに、AI とどのようにつきあうかについてディスカッションする。

最後に、学科ごとに発表する。

当日のスケジュール（案）

16:30~16:35	本日の研修の主旨説明
16:25~16:40	AI についての簡単な説明
16:40~17:00	AI を使ったプレゼン
17:00~17:15	学科でのディスカッション
17:15~17:30	ディスカッションの結果の発表

その他

* 日常業務で困っていること

* AI でできたら便利だろうと思うこと

以上

第3回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2023 年 7 月 3 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

（１） 人間学部前期 FD 研修会の内容の検討（第 1 回）テーマについて

「AI とのつきあいかた」に決定した。

（２） 実施時期と実施形態が決定した。

・ 7 月 10 日（水） 教授会後の 1 時間（16：30 開始予定）対面、教員のみでの実施

（３） スケジュールが決定した。

当日のスケジュール（案）

16:30~16:35	本日の研修の主旨説明
16:35~16:40	AI についての簡単な説明
16:40~17:00	AI を使ったプレゼン
17:00~17:15	学科でのディスカッション
17:15~17:30	ディスカッションの結果の発表

（４） 当日の役割分担が決定した

- 1 AI についての調査
- 2 AI に依頼する仕事の調査
- 3 事前に AI に仕事を依頼し、どのような回答を得られるかの予備調査
- 4 当日の司会進行
- 5 FD 委員全員が、AI に仕事を依頼するプレゼン
- 6 学科でのディスカッションの司会進行
- 7 学科からの報告の司会進行

第4回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2024 10 月 2 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

（１）人間学部前期 FD 研修会の内容の検討

アンケート結果の報告

（２）人間学部後期 FD 研修会の内容の検討（第２回）について

前期の FD 研修会のアンケート結果から、教員の半数は AI に関心を示している一方、消極的な教員の多くは、情報漏洩やハルシネーションへの危惧から、AI 使用に消極的であることがわかった。

そこで、AI の中でも、ユーザーの情報を学習に使わず、ユーザーがアップした資料からのみ回答するためハルシネーションがほとんど起こらない AI について研究し、次回の研修で使用する事となった。

（２）開催日時の検討

2025 年 1 月 15 日（水）教授会終了後約 1 時間を設定し、対面式で開催する案が了承された。

以上

第5回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2024 年 11 月 6 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

人間学部後期 FD 研修会の内容の検討

前回の打ち合わせを参考に、以下 2 つに AI を絞った。

* NotebookLM :

Google が作成しているため、信頼性が高い。

ユーザーの情報を学習しないため、情報漏洩のリスクがない

ユーザーがアップした情報からのみ回答するため、ハルシネーション（嘘）が起きにくい

* ChatGPT

ユーザーの情報を学習しない、という設定にすれば、情報が使われない

以上

第6回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2024 年 12 月 4 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

人間学部後期 FD 研修会の内容の検討

- ・研修会で使用する AI を、NptebookLM に決定した。
- ・FD 委員が使い方を学科で教えられるように、NotebookLM について学習する
- ・当日のスケジュール

16:30~16:35	本日の研修の主旨説明
16:25~16:40	NotebookLM についての簡単な説明
16:40~17:00	学科ごとにハンズオンで体験
17:00~17:15	学科でのディスカッション
17:15~17:30	ディスカッションの結果の発表

進行確認

- ・教員の懸念事項である、「情報が学習されない」「ハルシネーションが極めて少ない」について、しっかり説明をする

第7回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2025 年 1 月 8 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

人間学部後期 FD 研修会の内容の検討

- ・ NotebookLM に、アップする資料について学科ごとに検討する
- ・ FD 研修の役割分担の確認
- ・ NotebookLM の使い方の確認を行った

第8回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2025 年 2 月 5 日（水）

場所：Teams

参加：小栗、田嶋、登丸、永久（敬称略）

【審議事項】

人間学部後期 FD 研修会のふりかえりを行った

学科によって、AI への向き合いかたの違いが大きいことが示された。

一方、学生の AI 利用は進みつつあるとの報告もあった。

おわりに

生成 AI の技術は、日々目覚ましい進化を遂げており、教育・研究・業務といった高等教育機関のあらゆる領域にその影響が及び始めています。AI の活用により、これまで時間や労力を要していた作業が大幅に効率化され、教員が本来の専門性を活かすべき場面により多くの時間を割ける可能性が生まれています。実際、本年度の FD 研修においても、授業準備や研究支援、業務の効率化といった面で AI を活用する具体的な実例が多数挙げられ、その有用性を実感する機会となりました。

一方で、生成 AI には情報の正確性や倫理的な問題、学生の学習力低下への懸念など、多くのリスクが内在しています。AI が生み出す内容が常に信頼できるとは限らず、また、AI に依存することによって、学生や教員自身の「考える力」「読解する力」が損なわれる危険性も否定できません。これらのリスクを無視した導入は、教育の本質を損なうおそれがあります。

しかしながら、私たちは今、避けては通れない時代の転換点に立たされています。教育機関として、次の時代を生きる学生たちに必要な力を育成するためには、AI というツールを単なる脅威ではなく、教育の可能性を広げる資源として捉える視点が求められます。そのためにはまず、私たち教員自身が AI の特性や限界を理解し、実際に試してみることで、その可能性とリスクの双方を体感する必要があります。

AI の活用は、「導入するか否か」の問題ではなく、「どのように活用すればよいか」を模索する段階へと移行しています。今後も本学部では、教員の学びを支える FD 活動を通じて、AI とのより良い関係の築き方を探っていくとともに、教育の質の向上と教員の働き方改革をともに推進していく所存です。今後も学部教員の皆様のご要望を取り入れながら学部 FD を継続してまいります。今後とも皆様方のご協力をいただき、より良い学生教育のあり方を模索していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

ご参加された教員の皆様、お忙しい中ありがとうございました。

人間学部 FD 委員会(敬称略)

永久 ひさ子 (心理学科) 委員長

小栗俊之 (児童発達学科)

田嶋英行 (人間福祉学科)

登丸あすか (コミュニケーション社会学科)